

田熊石畠遺跡の調査報告

皆さんこんにちは、宗像市郷土文化交流課の白木と申します。田熊石畠遺跡を発掘した張本人です。ここでは遺跡の報告をさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

これは、宗像市の釣川流域、宗像市域を一望しております航空写真です。田熊石畠遺跡は釣川の中流域にあります。宗像市役所、裁判所、宗像高校といった宗像の中心施設のある所にある遺跡です。



宗像市郷土文化交流課 白木英敏

沖ノ島

田熊石畳遺跡

衛星写真で北部九州を俯瞰したのですが、こういった位置関係です。赤い点線が見えますが、これは玄界灘と響灘の境です。宗像は、西も東も両方見渡すような所にあります。

宗像地域とは

ここでは宗像地域とは宗像市・福津市の旧宗像郡。律令期にはこれに古賀市の一
部が加わる。響灘の西辺もあり、玄界灘の東辺もある。

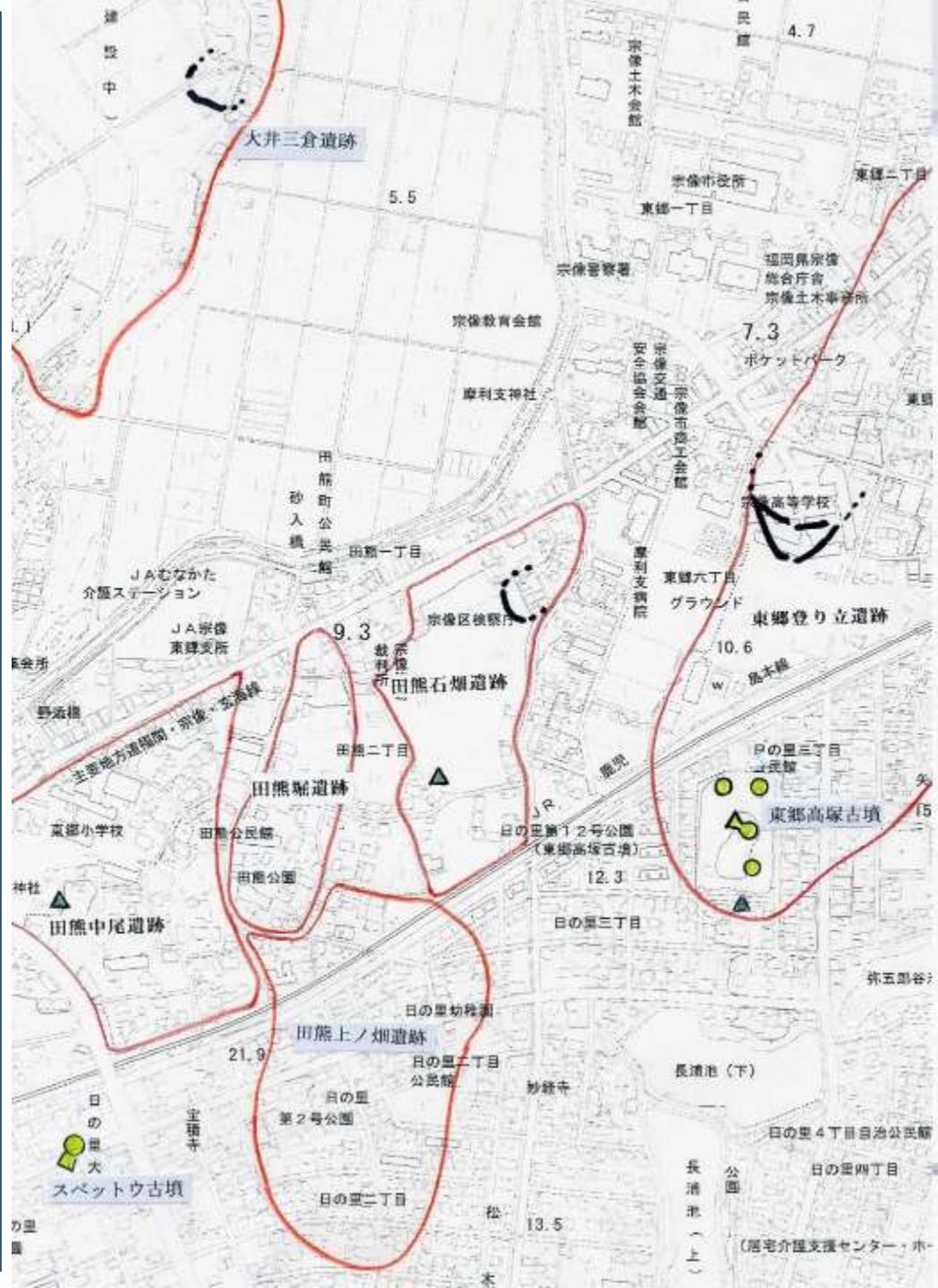
初期弥生文化の受容

付近には、弥生時代の遺跡がいろいろござります。弥生時代のごく初期の遺跡が北部九州の他の地域に劣らず分布していますが、そのなかでも有力な遺跡が釣川沿いに集中していることが分かります。富地原付近、それから田久ですね。この田久松ヶ浦遺跡は、弥生時代初期の朝鮮半島系の墓が見つかっているところです。



弥生時代の遺跡は釣川水系、西郷川水系、海浜部に展開する。面的に広がる大集落は形成しがたい。

この辺が宗像高校で校舎の下も遺跡です。ここにも環濠集落という、吉野ヶ里遺跡などで見られるような環濠集落があり、それから、この大井三倉遺跡で、ここも一つ重要な弥生時代の遺跡です。そして、この田熊石畠遺跡があります。



周辺の遺跡

東には弥生時代前期の環濠集落「東郷登り立遺跡」。西側には弥生から古墳時代にかけての集落遺跡「田熊中尾遺跡」など田熊遺跡群、北側には弥生時代前期の環濠集落「大井三倉遺跡」。

忘れてはならないのは、後の古墳時代になりますけれども、東郷高塚古墳。

4世紀後半ですので、ちょうど沖ノ島祭祀が始まるころ、内陸部に現れる全長64mの前方後円墳、それが日の里団地の中に公園として、まあ当時は、もう古墳とかどうでもいいような時代だったのですけれども、奇跡的に公園として保存されております。それから、東郷小学校なども遺跡です。

ですから、学校とかある場所なんていうのは、やはりちょっと高台になつていまして、人々が暮らすには良い場所だったということでございます。



周辺の遺跡

東には弥生時代前期の環濠集落「東郷登り立遺跡」。西側には弥生から古墳時代にかけての集落遺跡「田熊中尾遺跡」など田熊遺跡群、北側には弥生時代前期の環濠集落「大井三倉遺跡」。

この黄色いのが、いわゆる台地ですね。小高くなっている所に遺跡があるというのが分かるかと思います。これが宗像高校、田熊、東郷小学校もこういう地形だったのです。

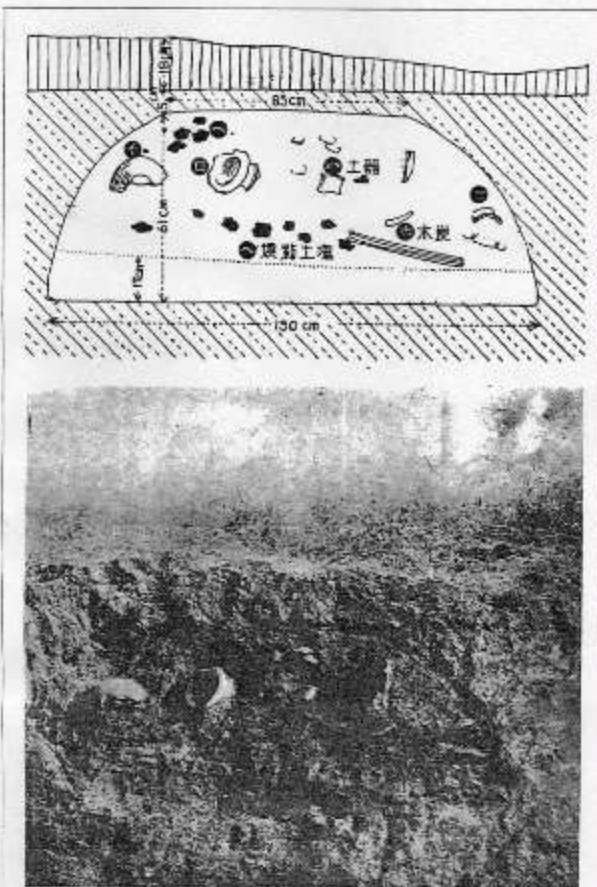


立地について

遺跡の立地する台地は、海岸線から6kmに位置し、東西150m、南北300m、標高12mほど。

発見の経緯

昭和8年、宗像高等女学校に赴任中の田中幸夫氏によつて発見、宗像初の発掘調査が行なわれ、東京考古学会「考古学」に報告。



福岡県宗像高等女学校遺跡発見場所 田中氏著文参考

彌生式有紋土器の新遺蹟と窯址

——福岡縣宗像高等女學校庭——

田 中 幸 夫

二六〇

昭和8年8月号

位 聞

有紋土器有名な遠賀川立原遺跡を、西南方に距つること約十六軒、汽車が走る老練・赤間の二驛を経て、終に東郷驛に入らんとする頃、即ち驛の東方約四百五十米の、そして鐵路の北方二百米の通りに、吾人は福岡縣宗像高等女學校々舍の裏窓を認めるであらう。

由来、當宗像郡は、記・紀の神代卷に曰ふ、所謂、三女神を奉斎する宗像君の蟠居地として知られた所であるが、地形、小丘陵に富んで台も箱庭の如く、四周山に囲まれた狭小の地が墳所に見られる。而て更に大きく、西方支流の一筋を除いては、他の三方悉く山丘を以て巣と絶縁せられ、陸路遠賀より當郡に入る爲には、奈良期以来の通路、垂水駅・遠賀郡岡垣村と、宗像郡池野村とを隔つる、湯川(孔大寺南岸の境)を外にしては他なく、現在は、藤原(一名城山)の長いトンネルによつて、僅に鐵路、兩者を接せしめて居る有様である。

石 器

第一圖は、石器の一部であるが、2・3、は始刃磨製石斧であり、4・5・6、も同じく安山岩の石斧である。

然るに此の遺跡の遺物として特に注目すべき事は、7、8、9、の如き、若敷岩の片刃磨製石斧が多く出土することである。而も、7には柄部に一ヶ所、8には二ヶ所の抉があり、尚、他に、附近より出土した、7と殆ど同類のものが一個ある。

戦後女学校は移転して宗像高校になり、この地は中央中学校に引き継がれ、その中央中も移転したあとは更地のままでした。そこに、開発の話がありましたのが平成20年。

それで発掘調査が始まり、私もこういう仕事をしても、なかなかお目にかかるれないような遺跡の発見につながるわけでございます。



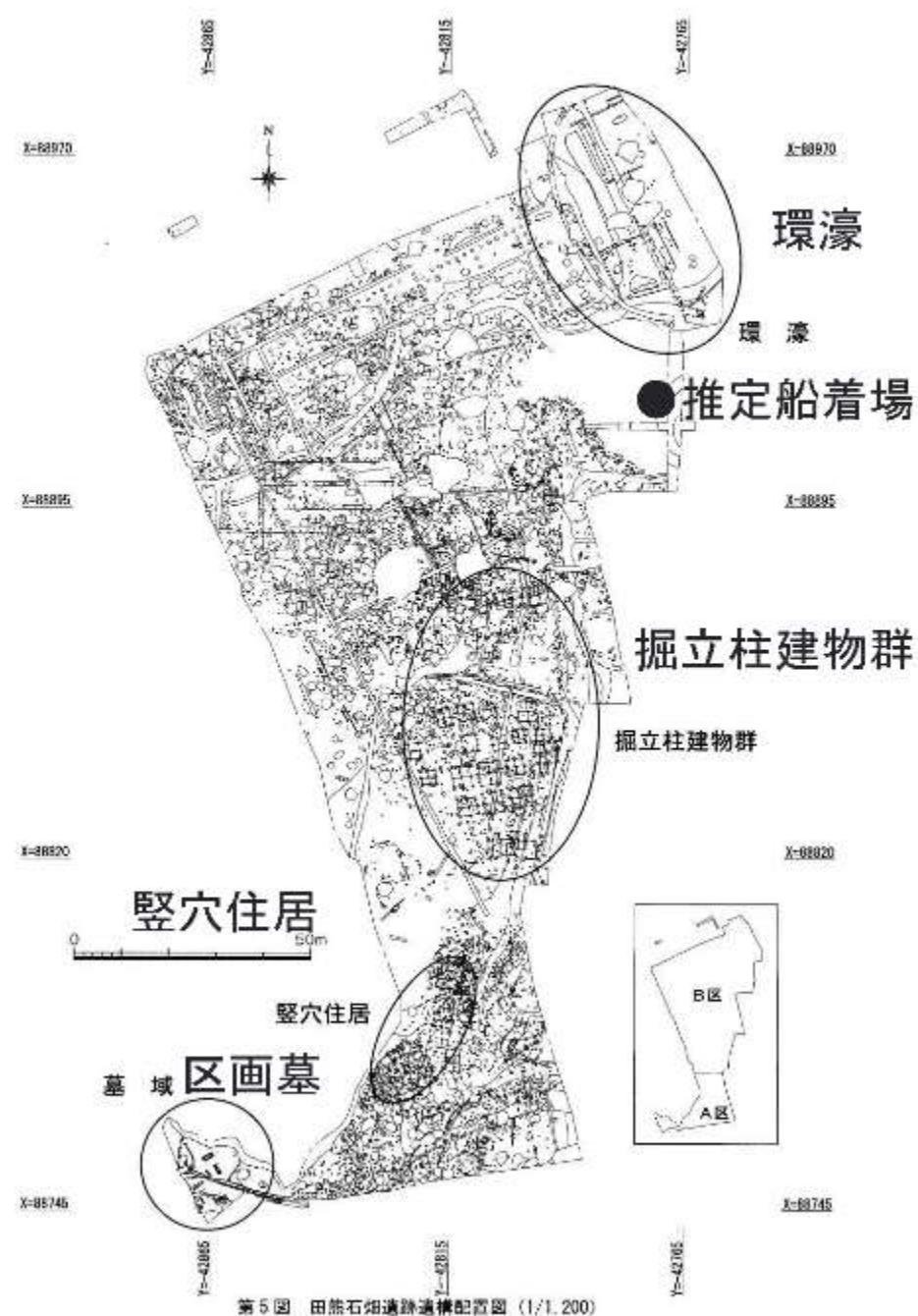
遺跡の内容はと言いま
すと、旧3号線側には環濠
が1つ見つかっております。
そして、推定船着場がこ
の辺だろうと考えていま
す。すぐ横に釣川の支流
の1つ松本川という小川が
流れています、ここを介し
た水運というのを考えて
います。

それから、時代は降り、
弥生の掘立柱建物以外に
古墳時代、6世紀の終わり
くらいの大規模な倉庫群
も出てきます。



ですから、東郷高塚古墳の存在も相まって、やはり弥生時代から古墳時代にかけての長期間、宗像にとって大事な場所だというものが分かります。

他には、竪穴住居が数棟ありますが、注目されるのは何と言ってもこの端にある区画墓です。墳丘墓とも言いますけれども、墳丘まで見つかっていませんので区画墓としていますが、こういった有力者の墓域が見つかっています。



環濠の調査



、環濠は円形ならば直径約50m。光岡長尾遺跡と同規模。

これは環濠です。溝が北と南に、ちょっと途切れている箇所があり、これは、わざと溝を掘り残した陸橋になります。そして、推定船着場と考えているのがこの辺。黒い所はまだ掘れまして、入江のようになっています。

しかも、その入江に面して、この環濠の南出入口が向いているということから、水運で運ばれた物資が検収を受けて、こういった環濠の中に運ばれたのかというのも一つ考えているところです。

谷部の調査

この入り江の包含層から漁撈具や朝鮮半島系の土器なども出ております。こういったのは土錘（どすい）と言って網のおもりですね。今でも海辺に行くと、こういう形のおもりが転がっていることがあります、網はそのままではゆらゆら揺れてしまうので、その下に付ける重りです。



土川南側陸橋部。前面には松本から入江状に谷部が入る。
。錘、擬船着き場。文部土器出る。

先ほどの古墳時代の掘立柱倉庫群が、北の群と南の群と2群に分かれます。この真ん中が、意味のある空間、つまり、荷物がこう運ばれたりきたり、ま中身の検査をしたりしてそれぞれの倉庫に運ばれる。そういうといった役割の広場がどうしても必要です。それがこの辺になるのではないかと考えております。

掘立柱建物の調査



6世紀後半から7世紀初頭の掘立柱建物群25棟検出。
9本柱倉庫が18棟、空白地帯を挟んで南群と北群に分かれる。
弥生時代に属するもの2棟程度。

竪穴住居の調査

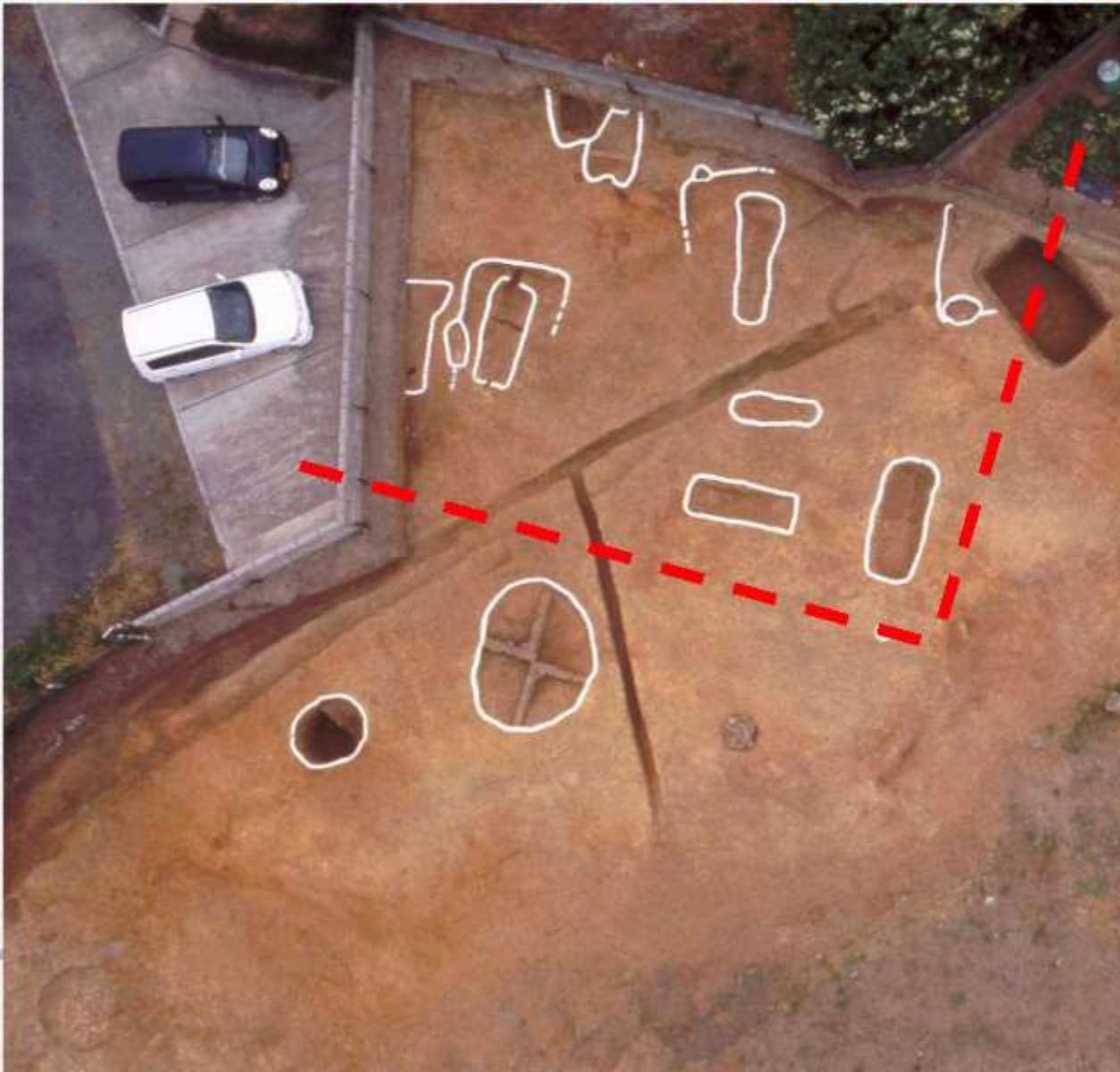
これは竪穴住居。やはり学校建設などでかなり削られて、なかなか全体が分かりませんけれども、こういう柱の跡から竪穴住居が同時期には2棟くらいあったんだろうと考えております。



弥生中期頃と思われる円形住居6棟以上検出。
同時期存続は2棟。

これが問題の区画墓です。お墓が、タテ・ヨコにきちんと規格的に規則正しく並んでおり、この外側にはお墓が見つからっていないということから、ちょうどお墓の方形の区画の北東隅を検出しているのだろうと考えております。

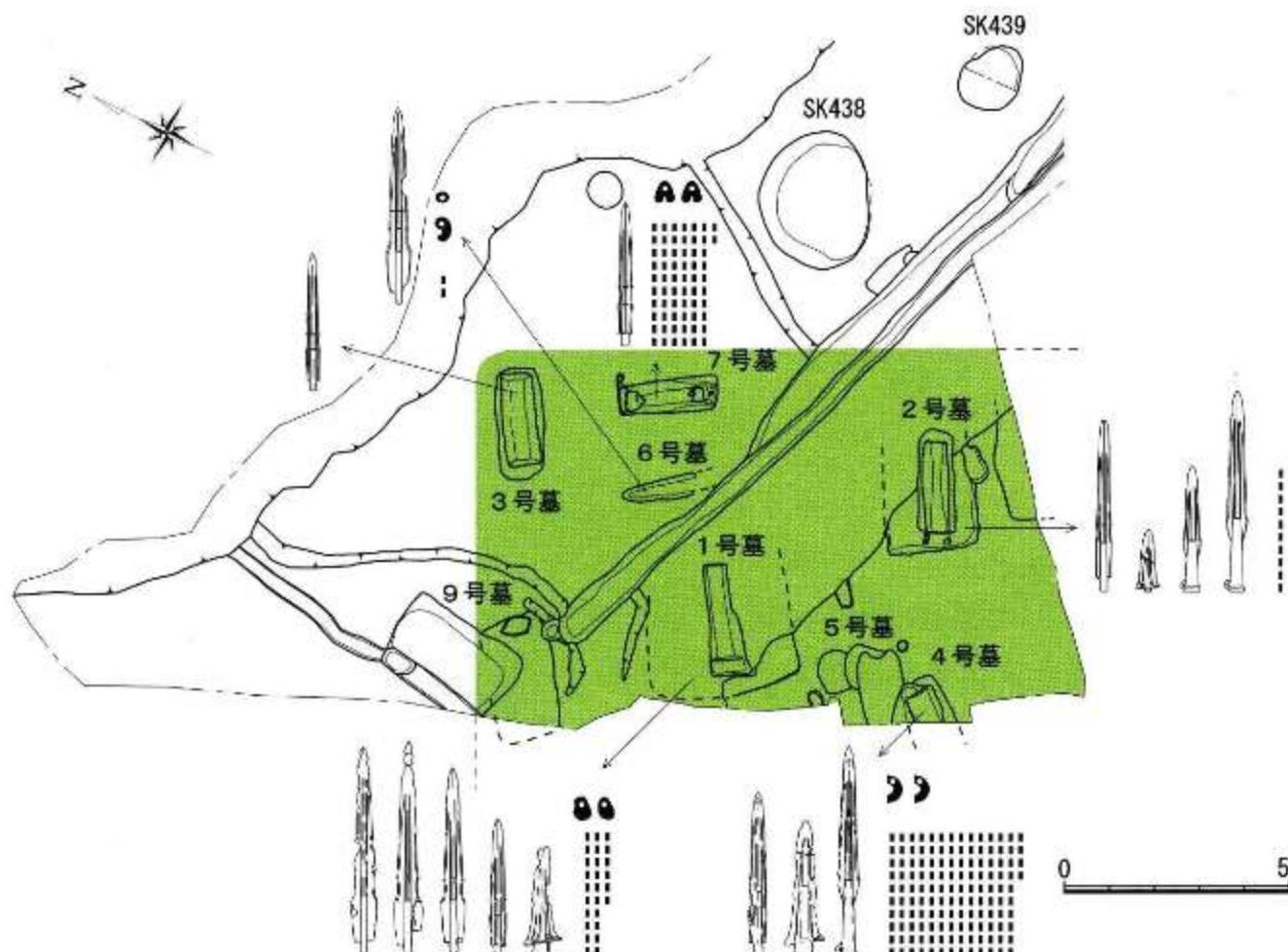
墓域の全景(北東から)



調査区の南西隅で9基の墓を発見、うち6基を調査。中期前半から中頃の造営。溝等はないが、墓壙の配置から区画墓と推定。

これが図ですけれども、1号墓というのを中心主体、これが銅戈、銅剣、計5点ということです。一番、今のところ大量に青銅器を持っているのがこのお墓です。それから、2号墓がその次で4本、4号墓では3本、まあ、通常の発掘の中でこんなに青銅器が出土するなんてことは、誰も想像もしておりませんでしたので、我々は青銅器まつりとか言って、頭がくらくらするような感じのなか、懸命に青銅器の調査をしていました。結果的には、15本ということになりました。

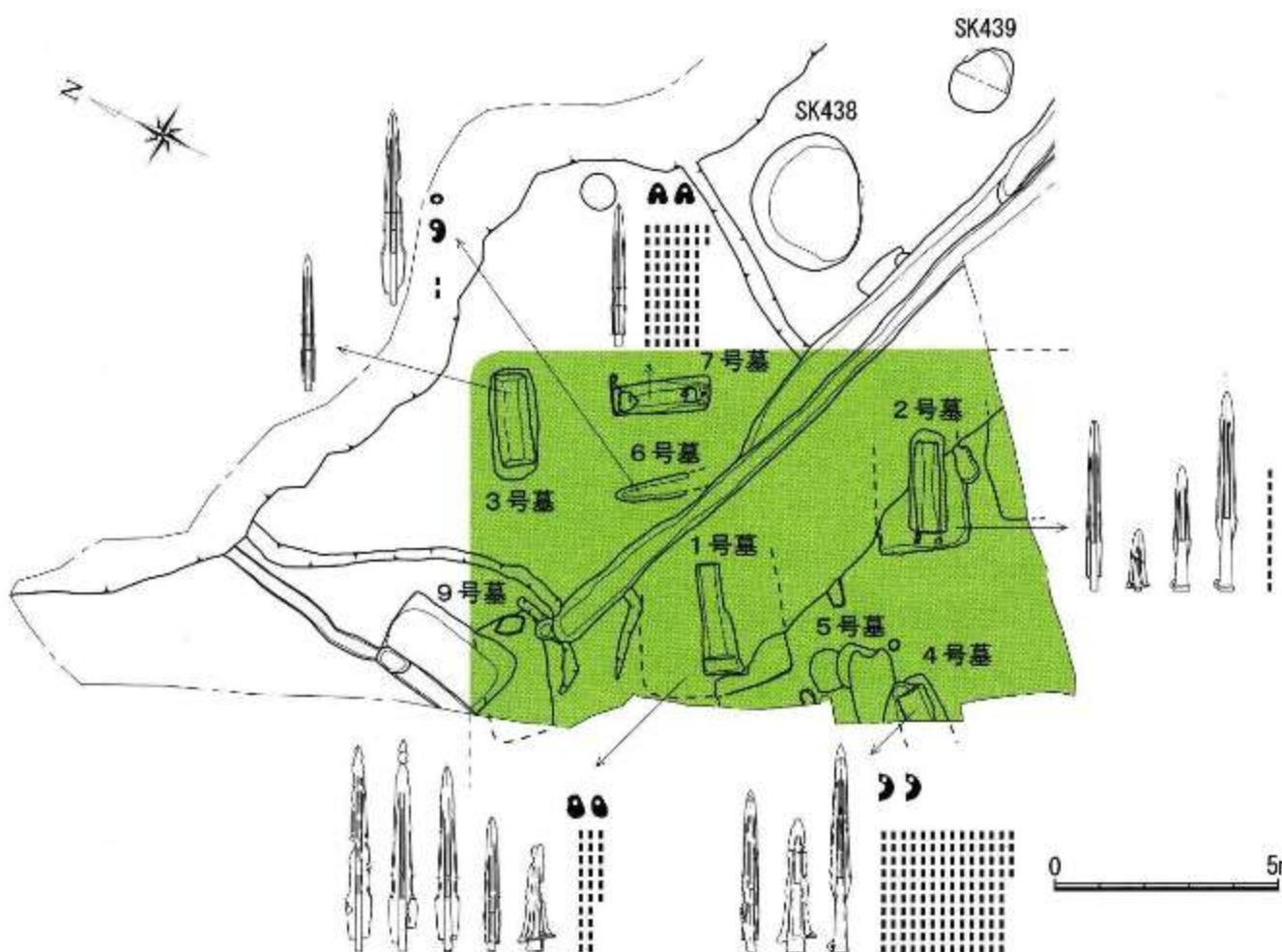
区画墓の全景(平面図)



第151図 墓域遺構配置図及び出土遺物 (1/200)

調査した6基すべての墓から青銅器出土。5点を最多に4点・3点といった複数埋葬が特徴。

区画墓の全景(平面図)



第 151 図 墓域遺構配置図及び出土遺物 (1/200)

調査した6基すべての墓から青銅器出土。5点を最多に4点・3点といった複数埋葬が特徴。

やはり区画墓の隅の部分は、1点ずつといったところで、中心に近いほど数を多く持っているというようなことが分かるかと思います。

1号墓の全景



中世（鎌倉時代）の溝で平されているが、奇跡的に青銅器などは残されていた。

これが1号墓ですね。お墓は木棺です。丸太を半裁して中をくり抜き、そこに死者を葬るというようなタイプの木棺です。ですから、北部九州でよく出土している甕棺というのは、実は宗像には分布しないというのがひとつ大きな特徴です。

1号墓遺物出土状況



これは、そのアップですね。頭がこの辺ですので、切先を足元に向けて銅剣や銅戈が備えられています。

側に頭骨がわずかに残る。左
切先は足元を向く。

1号墓装身具出土状況

碧玉製（へきぎょくせい）
管玉（くだたま）、ヒスイ
製垂飾（すいしょく）の
セットが2つ出土。



これはヒスイ製の垂飾
という装身具です。頭部
につける髪飾りだと思います。

ミニチュアの銅戈1本、銅矛2本、銅劍1本の計4本が出土。子どもの骨も一緒に埋葬される。

2号墓出土青銅器



これも青銅器の出土状況ですね。大人と共に、子どもの骨も一緒に葬られているケースもありました。

人骨と銅戈、銅矛、銅剣の

ほか、管玉・勾玉のネックレスが出土いています。2分の1は調査区外へ延びる。

4号墓全景



これもそうですね。半分ちょっと、お隣の敷地に入っていますけれども、こんな形で検出しております。頭の上に、銅戈という武器が置かれています。

これは、全部を合わせた15点の集合写真でございます。これは、剣、矛、戈という3種類の青銅器、それから、ヒスイ製勾玉・垂飾や碧玉製管玉、装身具。合わせてこれは全部、つい最近、国の重要文化財に指定されました。宗像市所有の重要文化財というのは、実は初めてです。

「宗像に国宝とかいっぱいあるんじゃないの？」と言われますが、国宝8万点の沖ノ島辺津宮祭祀遺跡出土品などは宗像大社の所有であり、本市にとって初の重要文化財となりました。

区画墓出土遺物

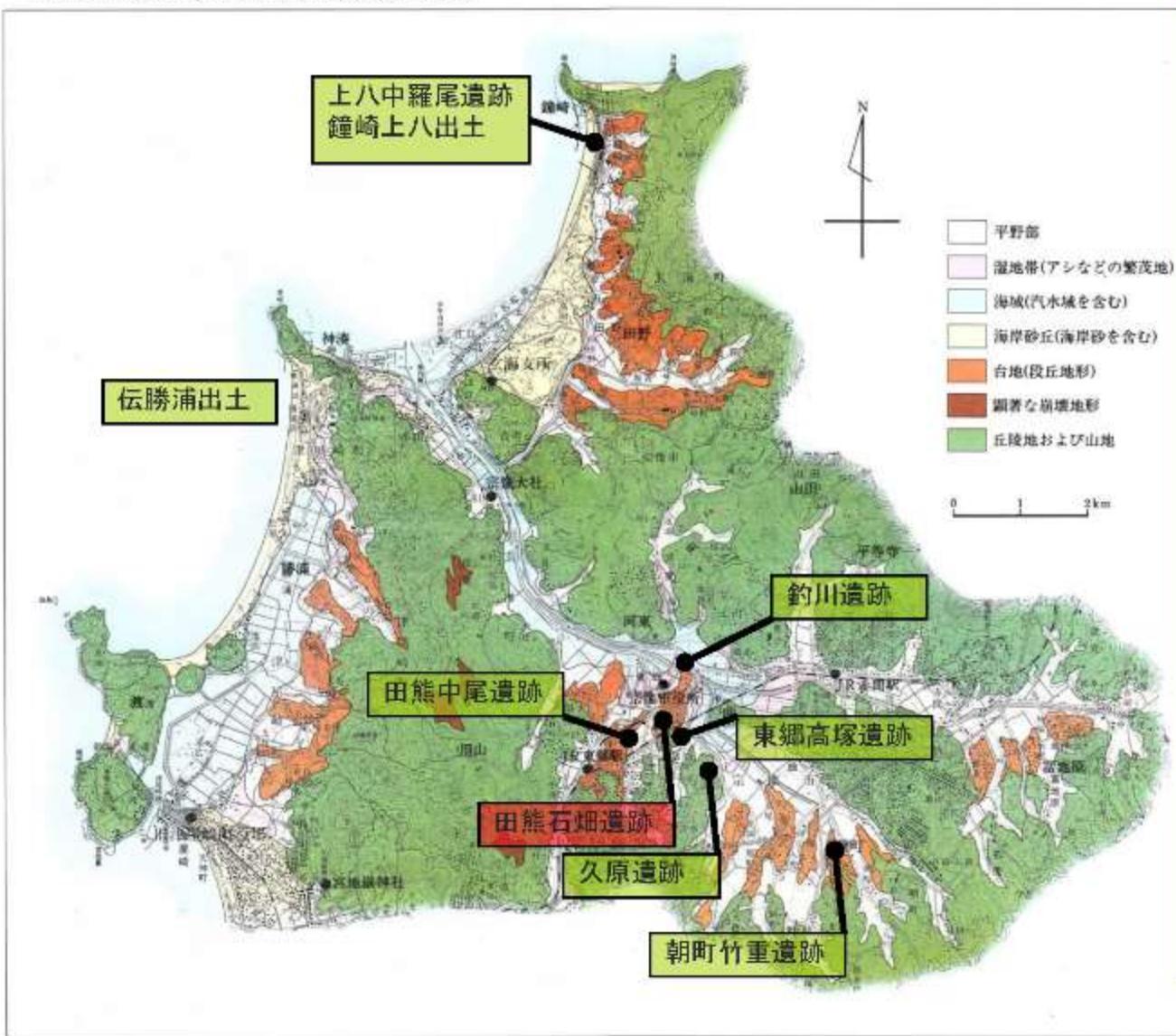


銅剣9口・銅矛3口・銅戈
3口。計15点。

こういった青銅器がどんな所から出るかというと、やはり田熊石畠遺跡を中心としたエリア、田熊中尾、釣川遺跡、東郷高塚、久原、まさにここですね。ここにも大きな弥生の遺跡がありますから、ここが弥生の中心地であると、あらためて田熊石畠遺跡の出現で思い至るわけです。このほか、内陸部の朝町竹重遺跡、それから沿岸部にも青銅器を出土する遺跡があります。そして、忘れてはならないのは、沖ノ島からも細型銅矛が出ていることです。

宗像地域の武器形青銅器分布

縄文時代(約4,700年前)の宗像の地勢



東郷・田熊地区が武器形青銅器分布の中心。沖ノ島からも細型銅矛出土。

田熊石畠遺跡の土器・青銅器

の土器は、弥生時代中期前半の須玖1式土器が中心。遠賀川以東の様相を示す土器も出土。また、破片資り。主に瀬戸内系。擬朝鮮系無文土器片。

宗像地域の青銅器は、中核に次いで多数の銅矛を保有する。また、銅戈を重要視している。

さて、田熊石畠遺跡の特徴を見ますと、一つは田熊の土器類は、中期前半の須玖I式が中心で、福岡平野などの土器に近い様相ですが、遠賀川より東側、日本海側の影響を受けたタイプの土器も出土しているということ。それから、外来系では瀬戸内のものもありますし、朝鮮系の土器などもあるということ。そして、青銅器についても、中枢圏（福岡市近郊・奴国）に次いで、かなりの数の銅矛が出土しているということ、また、銅戈を大変重要視した埋葬をしていることです。

田熊石畠遺跡の玉類

玉類も、やはり全体として東日本系の管玉が多く、北陸の西部の要素が強いのです。どうも東の関係が強い。また、ヒスイも良質ですけれども、よく分からぬ物もあります。類例がないのですね。同じ形がない。その中で、採集品の中にきわめて透明度の高いヒスイの破片がありました。



玉類は、全体に北部九州通有の様相を示しながらも、北陸西部産とされる東日本系管玉が多い。ヒスイ製垂飾類は良質だが、形状に類例がない。墓域外だが表採資料のヒスイ製未製品は、土井ヶ浜遺跡出土の糸魚川産ヒスイ製勾玉に酷似する。

これは、貝輪など装身具の研究で著名な木下尚子先生という方がいらっしゃいますけれども、土井ヶ浜遺跡に似ているのがあると聞き、それで、早速報告書を繰ってみますと、223号人骨と一緒に出土したものに写真の上ではそっくり。下は土井ヶ浜遺跡出土品の写真、上が田熊石畠遺跡のもので、報告書に田熊石畠遺跡採集品を乗せて写真を撮っておりますけれども、どうやらこれもまた一つ、日本海沿岸部との関わりをうかがわせる例と考えられます。

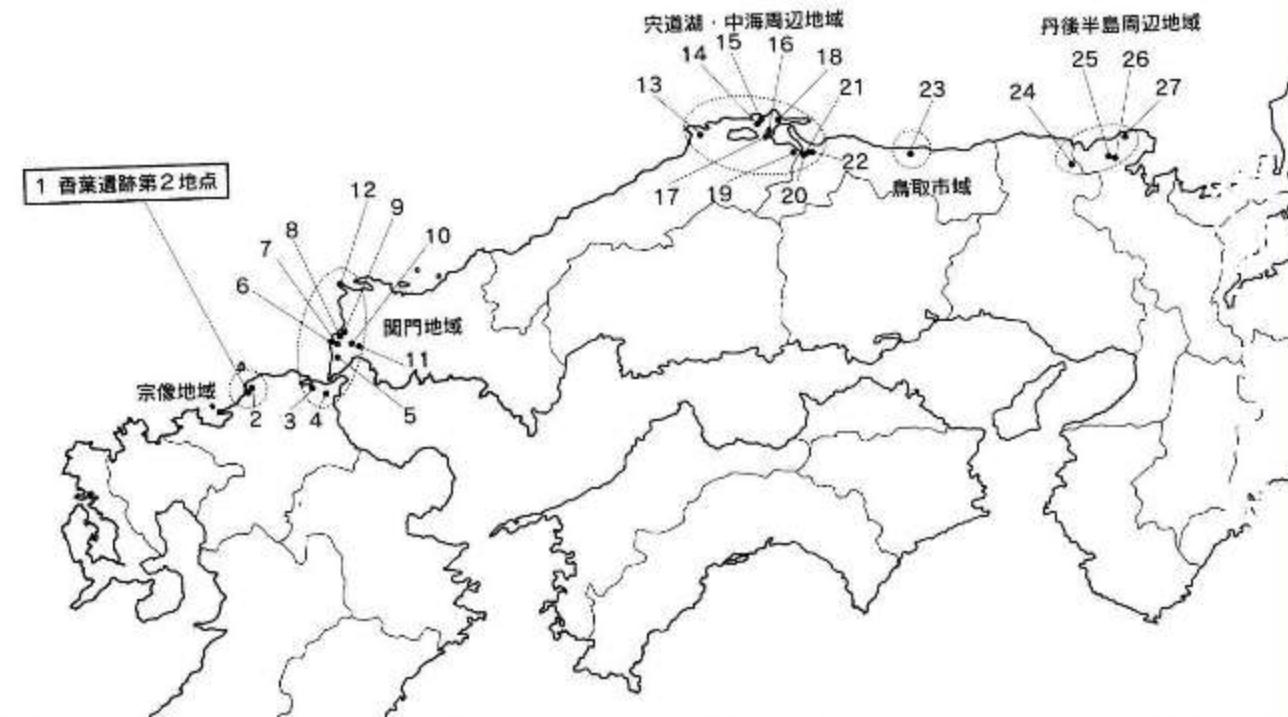
田熊石畠遺跡の玉類



玉類は、全体に北部九州通有の様相を示しながらも北陸西部産とされる東日本系管玉が多い。ヒスイ製垂飾類は良質だが、形状に類例がない。墓域外だが表採資料のヒスイ製未製品は、土井ヶ浜遺跡出土の糸魚川産ヒスイ製勾玉に酷似する。

そういうところを考
えるなかで、土笛という
ものに注目したいと思つ
ています。土笛、陶埙
(とうけん)とも申しま
すけれども、これはなぜ
か日本海沿岸部ばかりか
ら出る。そして、その分
布圏の西端が宗像地域で
す。関門地域とか、出雲、
鳥取、それから丹後半島
の一部に集中しており、
不思議な出方をしていま
す。これは一つ单なる樂
器というよりも、政治的
な器物ではないかといふ
考えもあり、これもまた海
沿岸部とのつながりの深
さをうかがうことができます。

弥生時代 土笛の分布



大半が日本海沿岸で出土。土笛を介した農耕祭祀を共有する集団ともいわれる。単なる楽器ではなく政治的器物ともいわれる。

宗像地域出土土笛の新事例

宗像市光岡長尾（みつおかながお）遺跡から1点出土していましたが、最新事例としては福津市香葉（かば）遺跡から出土しましたが、これはもう、宗像より西側地域では出ではいけないと固く思っていましたが、福津市は宗像地域なので大丈夫です。個人的に甕棺墓文化圏には原則土笛は分布しないと考えています。



宗像地域で2例目
センチ。

福津市香葉遺跡（かばいせき）
弥生時代前期末から中期初頭
の貯蔵穴より出土。全長8・7
センチ。

つまり、土笛の分布と真逆を示すのが、甕棺というお墓の形態です。ちょうど、古賀市の辺に分布の境がございます。甕棺の見つかった馬渡・東ヶ浦遺跡がこの辺で、青柳川という小河川近辺でどうも分かれます。ここから東は木棺・土壙墓、西は甕棺墓文化圏ということです。

大形甕棺の分布

大形甕棺墓分布西限



宗像地域、遠賀川下流域には分布しない。古賀市青柳川付近が北限。土笛と大形甕棺墓は真逆でどちらも偏った分布を示す。

北部九州のクニグニ

(梶栗浜)

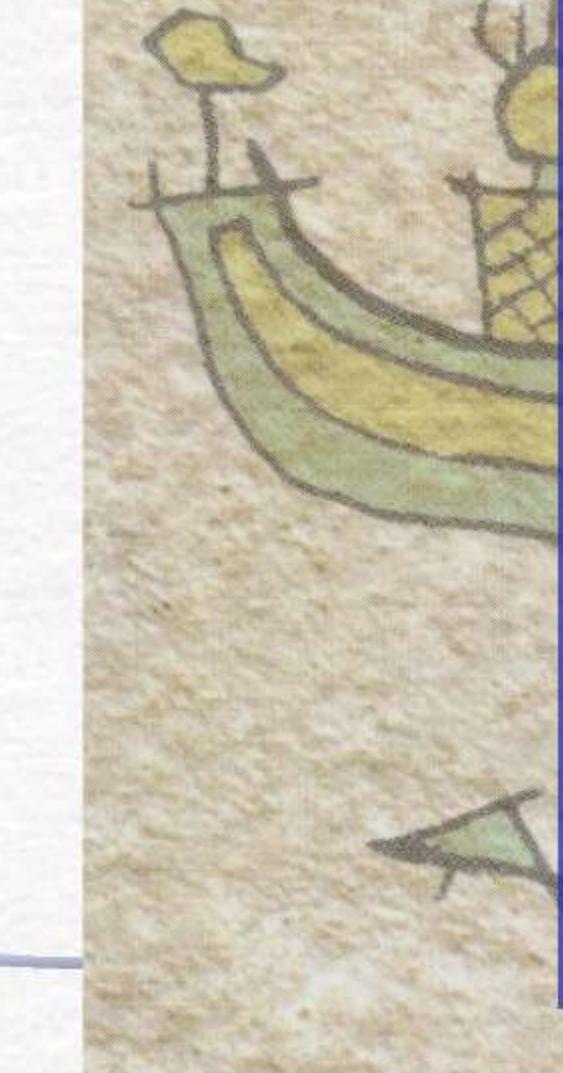


弥生時代中期～後期の主要遺跡とクニの推定範囲。地形する地域。後に独立性や青銅器を求心的に出土し、前方後円墳など後世の重要な遺跡が集中する。

そんな中で、この弥生のクニの推定図の宗像地域に赤い線を入れていますが、田熊石畑遺跡という存在から、ひとつ宗像でもこういった国を考えていよいのではないか、という推定で示しております。弥生時代のクニグニはそれに大きな遺跡を持っております。宇木汲田遺跡、桜馬場遺跡、吉野ヶ里遺跡、吉武高木遺跡、三雲遺跡など著名な遺跡があります。では、宗像は、というところで、この田熊石畑遺跡となるわけです。

最も保守的な儀礼である墓制が違うということから、奴国や伊都国とはちょっと文化が違うのではないかなどとあります。ただ、青銅器文化の影響は受けていて、威信財、宝物としての青銅器は大変好んでいます。どうも、それを東方に伝える役割があったのかどうかなど、後の先生方のお話で出るかと思います。私としても響灘以東の人たちとの政治的な結束があるのではないか、といったことも一つの仮説として考えています。

ムナカタと響灘以東との交流



弥生時代を通じて甕棺墓制を受け入れなかつたことから、強化にはなかつたのではないか。大なイト・ナ国^{イタノカミ}の直接的支配には享受し、東方伝播に一定の役割をになつた。

一方、政治的器物とされる土笛に見るよう響灘以東、日本海文化圏の一員として政治的結束を持ち、海上航路を通じて緊密な交流が行われていた。

田熊石畠遺跡の調査報告



宗像市郷土文化交流課 白木英敏

さて、この田熊石畠遺跡の説明は以上でございますが、遺跡は今、歴史公園として整備しております。ここを活動の場とする「田熊石畠遺跡村づくりの会」というサポート団体がございます。今日も、受付、会場案内をお願いしていますが、この遺跡は手づくりで歴史公園をつくろうじゃないかというところに特徴がございます。

田熊石畑遺跡の調査報告



宗像市郷土文化交流課 白木英敏

復元遺構がぽんとあって、ただ見るだけではなくて、自らの手でいろいろ、例えばベンチ一つも、みんなで作ってみても楽しいのではないかと考えています。花園もありますので、市民歴史農園、あるいは花園など、多様に使いたいと思います。ぜひ、賛同される方はお仲間になってもらえばと思っているところです。

御清聴ありがとうございました。